

「高城プライド」 ～心と形を整える～

令和3年9月17日（金） NO18 文責 木下 文秋

友と共に伸びる

15日に部活動生集会を行いました。部活動と言えば、恐らく8月の閉庁日（10日頃）あたりからずっと活動していなくて、再開しようとする停止期間の延長が決まるという繰り返りで、殆ど活動できていない状況です。そんな中、県大会が開催されるとのことですので、都城地区の大会も10月から始まります。部活動の再開にあたり、部活動の意義や目的などについて担当から話がありました。私も話す機会があったので少しお時間をいただきました。（4月から生徒の前で話をする機会は殆どないです）私は、『友と共に伸びる』という言葉を選んで紹介しました。何を「伸ばす」のか。それは、もちろん技術、体力です。しかし、一番大事なことはそこではない。部活動は勝つことが目的ではない。一番伸ばさなければならないのは「人間性」「人としての質」だと語りました。『みんなのお父さんお母さんは、「勝つこと」を期待して部活動をさせているんじゃない。君たちが立派な中学生として成長することを願って活動を支えているんだよ』という話です。具体的に言うと、「あいさつができる」「返事ができる」「時間を守る」という生活習慣が部活動で身についたら素晴らしいということです。この3つは、社会に出たときに必ず通用する人としてのポテンシャルです。もしあなたが「あいさつもしないし、返事もしなければ、時間も守らない」人になったら大変なことです。そうならないように、部活動の本来の目的や意義を理解して、部活動を通して、友と共に伸びることがとても大事なことだと生徒に話をしました。それからもう一つ大事なこと。それは、部活動と学校生活は一心同体であるということです。部活動でそこそこの成績を残せていても、学校生活の一丁目一番地が適当であれば何にもなりません。例えば、遅刻してくる。課題をしてこない。授業中にふざける…等の態度ならば、どんなに部活動でいい成績を残しても友達も認めてくれませんよね。みんなが見ていてカッコいい人って、「どんな事でもどんな時でも一生懸命頑張れる人」ではないですか？その人が仮に失敗して成績を残せなくても、馬鹿にはしないでしょう。むしろ私なら感動して、自分はどうなんだと己にベクトルを向けるはずです。間もなく活動再開です。生徒の皆さんには「友と共に伸びる」ための部活動を期待しています。